

# ブッシュとフセインの関係



フセインが処刑され、ただでさえ混乱続くイラクが、今や1日に1000人単位で人が殺される内戦状態に突入した。首都バグダッドは戦場そのもので、スンニ派は西へ、シーア派は東へと逃げ始め、「分断都市」の様相を呈している。

ブッシュ大統領は急遽2万2千人もの米兵を増派したが、これはまさに「火に油を注ぐ」事態を招き、イラク人、米兵双方で、今後ますます貴重な命が奪われていくだろう。(フリージャーナリスト・西谷文和)

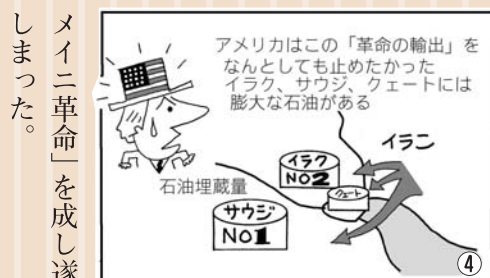
**フセイン処刑の狙いは**  
フセインはなぜ「急ぐように」処刑されたのであるのか？  
クルド人虐殺問題が審理されている最中に、「慌てて」殺されてしまった。私は、これは「口封じ」だと思ふ。

サダムフセインの犯した最大の罪は、クルド人大虐殺だ。写真の2人はフセインの毒ガス攻撃を受け、辛うじて生き残った母娘。人は10万人を越えるともいわれる。

この罪を問う裁判中に、「わずか」148人虐殺の「別件」で死刑にされた。これでは、殺された方、残された家族、毒ガスの後遺症で悩む人々の気持ちは浮かばれないのではないかと?

## アメリカとフセインの関係

図で説明しよう。1979年、イランでイスラム革命が勃発する(図①)。それまでのイランはアメリカの同盟国だった。しかしアメリカの支配に抵抗する民衆が立ち上がり、パルレビ国王を追放、なんと「ホ



## 中東の歴史を振り返ると...



のだ。  
そして運命の1988年、戦争のゴタゴタに乗じて、弾圧されてきたクルド人が「打倒フセイン」で立ち上がる(図⑥)。あせったフセインが、立ち上がったクルド人たちに毒ガスを使用。こうしてイラン・イラク戦争は終了する(図⑦)。

**戦争の褒美もらえず**  
しかしフセインは不満だった。「戦争の褒美はな

いのか!」。  
絶妙のタイミングでアメリカがささやく。「褒美を取りに行ってもアメリカは黙っているよ」。  
そしてフセインはクウェートに侵攻。ここでアメリカは手の平を返す。「クウェートを侵略するとは、何事だ!」。多国籍軍が作られ、湾岸戦争に突入。  
つまり、「クルド人大虐殺」の真相を明らかにすれば、「ブッシュとフセインの本

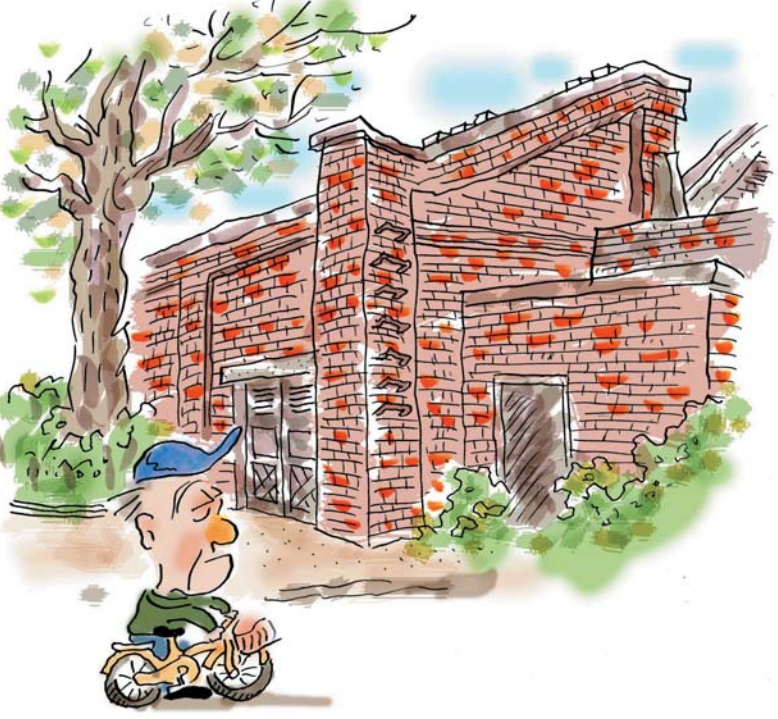
当のつながり」がばれてしまうのだ。  
**アメリカの仕掛けたウソにだまされるな**  
裁判を公開し、被告フセインが、べらべらとこの本当の関係についてしゃべってしまえば、ただでさえ窮地に追い込まれているブッシュ親子にとって都合が悪い。  
だから世界中の人々が、

「まだまだ真相が明らかになっていない」と感じているにもかかわらず、処刑に踏み切ったのだと思う。今回のキーワードは「アメリカの仕掛けたウソにだまされるな」だ。  
.....  
西谷文和さんの「戦争あかんシリーズ① 報道されなかつたイラク戦争」を5名の方にプレゼントします。  
ご希望の方は、16ページ記

**西谷文和の「戦争あかん」シリーズ①**  
**報道されなかつたイラク戦争** 西谷文和  
「平和・協同ジャーナリスト基金大賞」に輝くフリー記者の、命がけ現地ルポシリーズ刊行開始!  
「日本のマスメディアがほとんど引き揚げた後に、果敢にイラク入りし、市民の目線でイラクの現状を伝えた」(大賞受賞講評)  
せせらぎ出版 定価600円  
●お問い合わせ ☎06-6357-6916

載のFAXかメールで。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。  
〆切は3月20日。

それはなぜか? サウジ、イラク、クウェート...。世界の埋蔵石油の半分を占めるこれら「金のなる木」を、アメリカと敵対するイスラム国家にしてはならなかつた(図④)。  
ここでフセインが利用される。「隣国イランは革命をしたばかり。軍隊も弱体化。フセインよ、君が攻めていったら勝てるぞ」。  
アメリカ、イギリスなど西側のささやきに、乗せられるフセイン。  
彼は一方的にイランに攻め込んだ。こうして「イラン・イラク戦争」が始まったのだ。しかし自力に優るイラン軍の反撃にあい、いつしかイラク不利の状態に。  
ここでアメリカが動く。何としてもイラン・ホメイニに勝たせるわけにはいかない。必然的に、アメリカはフセインを応援した



## 勝手に吹田遺産 その2

### 「江坂カーニバルプラザ」

その昔、繊維といえは、鉄と並んで日本の基幹産業であった。大正6年、豊津村榎坂に従業員1200余人の一大紡績工場が建てられた。「三國紡績」である。この会社で事件がおこった。労働者に支払われていた手当ての2割引き下げがあり、怒った労働者が要求を出し、ストライキに発展したのだ。大正12年3月のことである。当時三國紡績には840人の女工がいて、大部分は地方から出てきて寄宿舎で生活していた。ストライキを察知した会社は夜勤につく予定だった300人の女工たちを寄宿舎に閉じ込め、外部と遮断してしまった。また争議にくわわった女工たちも着の身着のまま、寄宿舎に着替えを取りに行くことができず、男子工と共に扉を破って工場に入り、警察が介

入、多くの逮捕者をだした。この争議に大阪中の労働者が支援をおくり、天王寺公会堂で3500人の大集会を開き彼女たちの訴えに耳を傾けたという。この三國紡績の争議。労働者が敗北し、多くの女工が故郷に帰る結果となるが、事件の顛末を大阪府知事が内務大臣宛てに報告するという、大阪を揺るがした1週間となった。  
デキシーランド風の音楽とカニをバリバリ砕く音客のさわめきのカーニバルプラザからは、かつての女工たちの争議を思い起こすことは不可能だが、外に出て裏のレンガ塀をじっとみていると「休むこともできず、国もとの親に送金の金も残らない」といった、女工たちの訴えが聞こえてくる。